

イマドキファミリー研究所 2020年度研究
【コロナ禍におけるパパママの意識・行動変化】

テレワークが生むのは、ママのゆとりか？ストレスか？

コロナ禍で強化された「家事シェア消費」と 新たに生まれた「家族の絆消費」

株式会社ジェイアール東日本企画 イマドキファミリー研究所では、2020年度の調査研究第一弾として、“コロナ禍におけるパパママの意識・行動変化”に関する調査を行いました。

自粛生活の中で、共働き家庭が直面したテレワークという新しい働き方。専業主婦ママにとっても、子供や夫がいつも以上に家庭に長く留まり一緒に過ごす状況が生まれました。コロナ禍により、共働きママやパパ、専業主婦家庭のママやパパそれぞれがどのような生活スタイルとなったのか、変わったこと・変わらなかったことについて調査を行いましたので、トピックスをご紹介します。

Findings

- ✓ 共働きのテレワーク実施ママ・非実施ママ共に「時間的余裕なし」が多数派。ただしテレワーク実施ママでは、非実施ママと比べると「余裕あり」がやや高く、多少のゆとりが生まれている。
- ✓ 「家族みんなで過ごす時間の大切さ」を多くのママが実感。一方で、専業主婦ママの「ストレス」の高さが突出。
- ✓ 家族の時間が増えたコロナ禍、新たな家族消費はテレワーク実施ママに高い割合で発生。
- ✓ 「冷凍食品は手抜き？」論争に終止符！商品活用・家事シェアで子供との時間を創出するのが、テレワーク実施ママのニューノーマル。

首都40km圏共働きママのテレワーク率は35.5%。
時間的余裕の少ない共働きママであるが、
テレワークにより多少のゆとりが生まれている。

6月末の調査時点での「テレワーク実施率」は首都40km圏の共働きママで、「週1日以上」が35.5%、週3日以上では23.9%。ママ・パパいずれも、中京圏や関西圏に比べて首都40km圏居住者での実施が高かった。また、首都40km圏においては、勤め先の事業規模や業態・業種の男女差があるのか、パパのテレワーク実施率はママよりやや高い結果となっていた。

■6月末時点でのテレワーク実施率



次に、テレワーク割合が高かった首都40km圏の共働きママについて、時間的余裕はどのように変化したかを確認した。

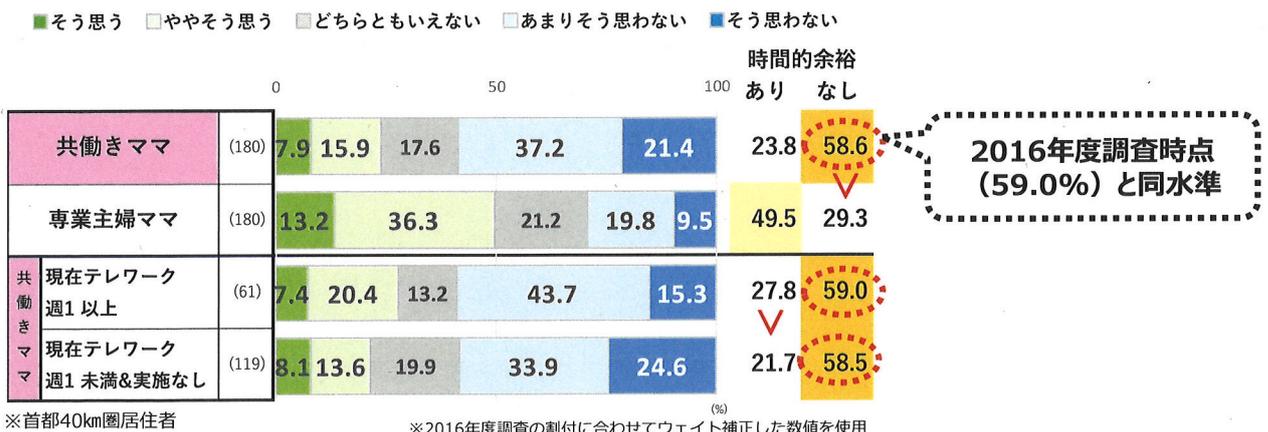
共働きママ全体では、「時間的余裕があるほうだ」に対し「そう思わない+あまりそう思わない」(Bottom2)と答えた【時間的余裕なし】は58.6%と、2016年度調査(59.0%)とほぼ同水準。

調査実施時点では首都40km圏共働きママの2割以上が週3日以上のテレワークをしていたが、テレワーク実施者を含んでも、共働きママは【時間的余裕なし】が多数派という結果だった。

共働きママのうち、テレワーク実施ママ(週1以上実施者)でも【時間的余裕なし】は多数派だったが、テレワークをしていないママと比較すると【時間的余裕あり】が27.8%とやや高く、テレワークにより多少の時間的余裕が生まれていることが分かった。

■時間的余裕の有無

「時間的余裕があるほうだ」



テレワークで生まれた多少のゆとりは、家族との時間に！
 絆意識が高まり、家族で楽しむための消費に動きがあった。
 一方、専業主婦ママは「自分時間の減少」が顕著であり、
 ストレスの増加度が最も高かった。

コロナ禍前（1月頃）と現在（6月実査時点）を比べての意識変化では、「家族みんなで過ごすことの大切さを改めて感じた」「子供の成長を見る機会が増えて幸せを感じた」などが共働きママ・専業主婦ママいずれも高水準。中でも共働きテレワーク実施ママでは8割以上の高い割合となっていた。

一方、専業主婦ママでは、「生活全体的にストレスが増えた」が72.2%と高い割合となっていた。

■コロナ禍前(1月頃)と現在(6月末調査時点)を比べての意識変化 (あてはまる+どちらかという+あてはまる計)

		n	家族みんなで過ごすことの大切さを改めて感じた	家族で楽しむことになった工夫して考えるように	子供の成長を見る機会が増え幸せを感じた	子供に思いやりや優しさを増えたい	生活全体的にストレスが増えた
共働きママ	テレワーク週1以上	64	82.8	79.7	84.4	67.2	54.7
	テレワーク週1未満&実施なし	116	74.1	64.7	75.0	56.0	68.1
専業主婦ママ		180	77.2	66.7	70.0	54.4	72.2 ^(%)

※首都40km圏居住者

生活ではどのような行為が増えたのか、また反対に減ったのかをみると、コロナ禍において、共働きママも専業主婦ママも、「家族揃って家の中で遊ぶこと」「子供と遊ぶ時間」など、「子供と関わる時間」が大幅に増えたことが分かる。

生活全体的にストレスが増えたという割合が高かった専業主婦ママでは「自分自身の時間（自宅外）・（自宅で）」の減少が大きいことも分かった。

共働きママをテレワーク有無別でみると、テレワーク実施ママでは「子供と遊ぶ時間」などの増加がテレワーク非実施ママより大きく、「家族揃って家の中で遊ぶこと」の増加幅は専業主婦ママ並みとなっていた。

■コロナ禍前(1月頃)と現在(6月末調査時点)を比べて増えた時間

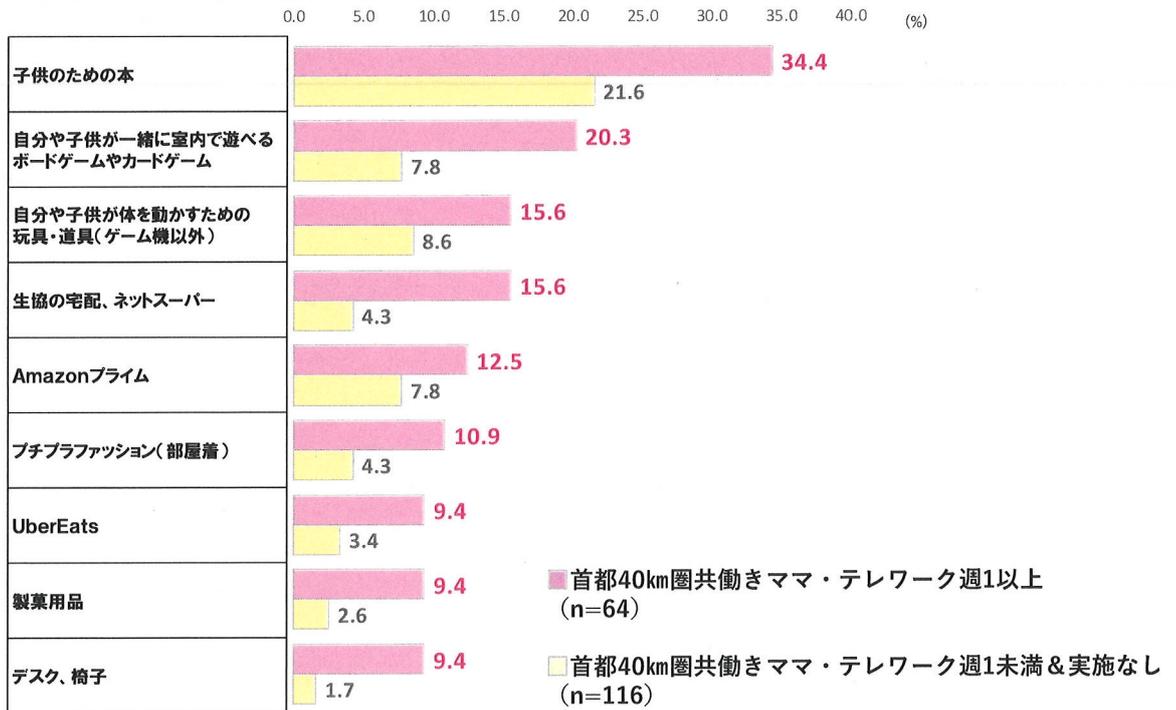
※「増えたと回答した人の割合」
 -「減ったと回答した人の割合」。
 マイナスとなっているのが減った時間。

		n	家族揃って遊ぶこと	子供と遊ぶ時間	子供の勉強を見る時間	自分自身の時間（自宅外）	自分自身の時間（自宅で）
共働きママ	テレワーク週1以上	64	53.1	48.4	42.2	-28.1	20.3
	テレワーク週1未満&実施なし	116	46.6	37.9	28.4	-18.1	4.3
専業主婦ママ		180	52.2	59.4	47.2	-40.6	-28.9 ^(%)

※首都40km圏居住者

共働きママに「コロナ禍で新たに購入したもの」を聞くと、「子供ための本」「自分や子供と一緒に室内で遊べるボードゲームやカードゲーム」「自分や子供が体を動かすための玩具・道具」など、「子供のため、家族で一緒の時間を愉しむための『家族の絆消費』とも言える消費」が、特にテレワーク実施ママで伸びていた。

■コロナ禍で新たに購入・利用したもの



トピックス3

テレワーク実施ママでも「冷凍食品」等の利用は高水準。パパやお助け食品との「家事シェア生活スタイル」を継続・強化！

平日の家族の夕食へ「市販の冷凍食品」等の「お助け食品」を使う割合は、共働きママが専業主婦ママを上回り、テレワーク実施ママでも高水準で利用が見られた。また、共働きパパの平日の家事実施率（次ページ）は、妻が専業主婦のパパの家事実施率を大きく上回る結果であり、2016年度調査時点よりもさらに家事実施率は高くなっていった。

テレワーク実施ママには多少の時間的余裕が生まれたが、余裕時間は子供や家族との時間にあてており、「お助け商品」を積極的に活用する「家事シェア消費」が継続されていることが分かった。またパパとの家事シェアスタイルもさらに強化されていた。

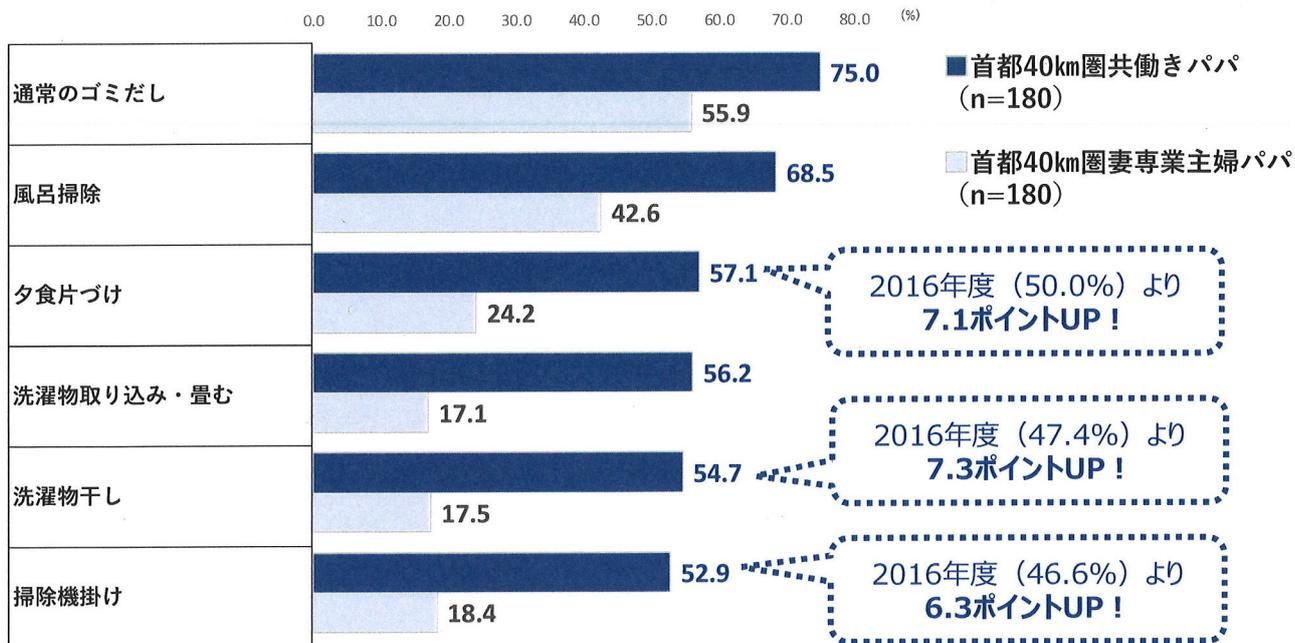
■平日の家族の夕食に月1以上利用

※夕食を自身で作る人ベース

	n	市販の冷凍食品 (餃子・チャーハン等)	市販の冷凍野菜 (ホウレンソウ、ミツク スベジ、タケノコなど)	市販の調理済み食品 (ハンバーグ、ミート パドリングなど)	街中の惣菜・ 弁当専門店	スーパー、コンビニの 惣菜・弁当	
共働きママ	テレワーク週1以上	63	65.1	66.7	55.6	41.3	52.4
	テレワーク週1未満&実施なし	108	57.4	50.0	50.0	32.4	38.0
専業主婦ママ	178	57.9	51.1	46.1	21.3	33.7	

※首都40km圏居住者

■ パパの平日の家事実施率 (パパ+ほとんどパパ+パパママ2人で計)



※2016年度調査の割付に合わせてウェイト補正した数値を使用

まとめ

共働き家庭にとって、生活スタイルそのものが変わる可能性のある「テレワーク」だが、今回の調査結果からは、「共働きママのこれまでの生活・行動スタイルがまるで違うものになる」ということではなく、**共働きママは相変わらず時間的余裕がなく「冷凍食品」等の利用率が高く、パパと家事を分担していることが分かった。**

テレワーク実施の共働きママでも時間的余裕のなさや「冷凍食品等の利用」は専業主婦ママより高かった。また、わずかに時間的余裕が増えたが、「子供と関わる時間」が増えており、「**家事は商品・サービスに任せる“家事シェア消費”を行ない、子供との時間を作る**」という、これまでの研究からも見られた行動が強化されていた。

テレワークだけでは十分なゆとりは生まれていなかったが、**家事シェアをすることで子供との時間が創出でき、家族みんなで過ごすことの大切さを感じて、家族で楽しむための“家族の絆消費”にも繋がっていた。**結果として生活全体のストレスが低く抑えられている様子も窺えた。

今回の結果から、今後テレワークが更に浸透していても、**お助け食品やパパと家事シェアを積極的にいながら、自分自身の時間と子供や家族との時間をバランスよく創出し、家族の絆を深めていくのが、テレワークママのニューノーマル**と言えそうだ。

イマドキファミリー研究所 「コロナ禍におけるパパママの意識・行動変化」調査概要

1. 調査方法

クローズドモニターによるウェブアンケート調査
*スクリーニング・本調査一体式調査

2. 調査対象

下記条件に当てはまる対象者

- ①25～49歳の子供がいる男性・女性
- ②自身および配偶者の親との同居なし（夫婦＋子供のみで同居の世帯が対象）
- ③夫（パパ）がフルタイム勤務【週5日週35h以上就労者】
- ④ママの働き方×未子の年齢で割付
* 共働きママは、正社員・契約社員・（派遣社員）で、週5日以上週30時間以上勤務
- ⑤職業除外：マスコミ・メディア関連、広告代理店、調査会社

3. 調査日

2020年6月25日（木）～2020年7月1日（水）

4. 有効分析数

		未子年齢			計
		0～2歳児	3～5歳児	小学校 1～3年	
首都40km圏	共働きママ	60	60	60	180
	専業主婦ママ	60	60	60	180
	共働きパパ	60	60	60	180
	妻専業主婦パパ	60	60	60	180
中京圏	共働きママ	60	60	60	180
	専業主婦ママ	60	60	60	180
	共働きパパ	60	60	60	180
	妻専業主婦パパ	60	60	60	180
関西圏	共働きママ	60	60	60	180
	専業主婦ママ	60	60	60	180
	共働きパパ	69	66	45	180
	妻専業主婦パパ	60	60	60	180
					2160

5. 調査対象地域

●首都40km圏

東京駅を中心として半径40km圏内の一都三県の市区町村が対象

- 「40km圏に全てが入っていない市町村」については40km圏への掛かり具合や、都心へのアクセスを考慮し選定

●中京圏

愛知県、岐阜県、三重県

●関西圏

大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

「イマドキファミリー研究所」について



「イマドキファミリー研究所」は、共働き世帯の増加など家族を取り巻く環境の変化に着目し、「イマドキファミリー」のリアルなインサイトを捉え、企業と家族の最適なコミュニケーションを発見・創造することを目的として、働くママプランナーを中心に、2017年にスタートしました。

当社の情報発信サイト「恵比寿発、」では、本研究所のメンバーが、さまざまな研究データをもとに、イマドキ家族の実態を定期的に発信しています。ぜひご覧ください。

「恵比寿発、」 <http://ebisu-hatsu.com/>

「イマファミ通信」 <http://ebisu-hatsu.com/report/imafami/> ※「恵比寿発、」内